

近松没後義太夫節初演作品一覽(上)「未定稿」

神 津 武 男

はじめに

義太夫節の初演作品で、通し本(いわゆる丸本)の残るものは、四百四十を数える。

ただし第一世代の作者三人(近松門左衛門・紀海音・錦文流)の著作、および作者未詳の竹本筑後掾(初世義太夫)初演作品を除いた数である。

本稿は、義太夫節の初演作品の数を明らかにするために、作品名を書き上げること
を第一の目的とする。対象となる期間は、元号「享保」から「嘉永」までの、およそ
百三十年間にわたるが、紙数の関係上、本稿では「宝暦」までを収め、「明和」以後
は次の機会に譲りたい。

なお冒頭、お断り申し上げる。本稿のリストには、記載漏れや誤認なども多かろう
と思われる。先学同学の御叱正によつてのみ完成に近づくと思つて、未定稿とし
て、御批判を賜りたい。

一 義太夫節初演作品の数

義太夫節の初演作品は、どれほどと数えられてきたのだろうか。

黒木勘蔵氏は、

約一世紀間に互つて新作された義太夫節浄瑠璃の総数は、著者の知る限りでは無
慮六百篇にも及ぶやうである。

と述べられた¹⁾。

内山美樹子氏は、

十七世紀初期以来の古浄瑠璃まで遡れば千数百にもものぼると思われませんが、ここ
では義太夫節、それも江戸時代の、基本的に丸本(全段本)が伝わる作品に限つ
ていえば、ほぼ七百数十

と数えられた²⁾。

鳥越文蔵氏は、

浄瑠璃の作品はどのくらいの数になるのであろう。非常に大雑把な言い方を許し
てもらつと、古浄瑠璃時代五百点、新浄瑠璃時代七百点、ただし新浄瑠璃七百点

のうち、近松門左衛門と紀海音二人の作品は個人名を冠した全集もあるので別格
として除くと、新浄瑠璃も五百となる。

とされた³⁾。

黒木氏は「六百」、内山・鳥越両氏は「七百数十」「七百」とする。およそ百点の差
は正誤ではなく、『近世邦楽年表 義太夫節の部』(黒木氏は同書の編者)から『義太
夫年表 近世篇』(内山・鳥越両氏は刊行会事務局をつとめられた)までの研究の進
展を反映したものと解釈すべきであらう。

『義太夫年表』索引篇所載の、宮本瑞夫氏「正本所在目録」の掲げる作品名は、八
百四十三を数える。宮本目録が三つの推計に比べ、さらに百から二百ほど多いのは、
伝存不明のもの(「正本未見」「本不出」などと注記する)を含むためで、これら八十
三を除くと、七百六十一となる。

七百台に並ぶ内山・鳥越・宮本各氏と、六百とする黒木氏との隔たりを、改題本や、
写本で一本のみ伝わった諸作などを含むか否かの差であると、筆者は考えている。こ
れらの資料は次稿に列挙するので、この点は次稿で再説したい。

概観すると、「義太夫節初演作品の数」は従来、通し本の残る作品の数を以て想定
されてきたことが判る。その数、およそ七百前後と捉えられてきたことを確認してお
きたい。

二 整理の目的と問題

ひとつの文学ジャンルに一体、「何作品あったか」との問いは、必ずしも本質的な
課題ではないであらう。しかし「どれほどの本が伝えられているのか」との問いへの
答えは、当該分野の基礎研究の水準を示すものと考ええる。

本稿作成の意義は、「本文」(テキスト)がどれほど伝わっているのか。我々はどう
ほどの「本文」を把握出来ているのか。義太夫節人形浄瑠璃研究の基礎を見つめ直す
ことにある。

整理の前提として。本稿の対象とする「義太夫節の初演作品」とは、義太夫節によ
る人形浄瑠璃興行で初演された作品に限る(歌舞伎で初演された義太夫節作品『京鹿

子娘道成寺 道行」などは含まない。

「義大夫節による人形浄瑠璃」は現在も人形浄瑠璃文楽をはじめとして、国内諸所に行われているので、明治期以後の諸作も含むべきであるが、整理の都合上、近世期までを対象とする。ただし浄瑠璃作者第一世代（近松門左衛門・紀海音・錦文流）には各々全集が備わること、同時期の作者未詳の筑後掾初演作品についても活字本が刊行されていることから、整理の対象から除外する。これは鳥越氏の整理に倣う処理である。

具体的には、浄瑠璃作者第二世代——竹本座の元祖竹田出雲と文耕堂、豊竹座の西沢一風と田中千柳と並木宗輔、および同時期の作者を含む——以降の著作になる初演作品を、対象とすることになる。なお近松生前に初演された、第二世代作者の著作を含むことを注記する。

整理の目的は、通し本の伝わる作品の数を明確にすることである。そのため、かりに作品番号を与えて、「年表」掲出順に、元号ごとと一番から数えた。各元号の最後の数字の総和が、すなわち「通し本の伝わる作品の数」となる。なお上演禁止のため、浄瑠璃本が出版されなかった二例（享保 062『南蛮鉄後藤目貫』、『明和 058』太平頭整飾）は、写本のみで伝わるものであるが、特に加えている。

内山氏は注（2）の論考の中で、「同じ作を題だけ変えて上演、出版している改題本」と、「稽古本は伝わるが、丸本は現存しない」作品への注意を促す。

改題書名を重複して数えることを避けるため、原題にのみ作品番号を与えたのであるが、この「改題本」の認定が、本稿整理の問題である。留意すべく心掛けたつもりであるが、見逃しがあるものと思われる。御叱正を願う。

また「年表」段階では伝存不明とされた作品の、伝本発見が続いている。

並木正三追善浄瑠璃「極楽往来蓮寄初」は一九九五年夏、松竹大谷図書館で新たに整理登録され、『和泉式部軒端梅』は、二〇〇〇年三月刊の「口野 足立家文書目録」（沼津市明治史料館目録26）に伝存が示された。今後も伝本発見は続くであろう。そのため、「年表」が伝存不明とする分についても、頭に「↓」を付して、作品名を掲げることとした。これらの作品の伝存について、御留意願いたい。

最後に、整理の今後の見通しを述べておきたい。

通し本の伝わる作品の数を明確にしたのちには、「通し本が残らず、抜き本のみ残る作品」の検討が待っている。通し本に見られない書名をもつ抜き本であっても、改題本である例（通し本『博多織恋繡』と抜き本『世話仕立唐縫針』。部分的な書き換えを含む）もあり、通し本同様に、改題への留意が必要である。

通し本と抜き本の整理を終えた段階で、「板本の残る、義大夫節初演作品の数」が

明らかになる。さらにのちには「本の残らない、義大夫節初演作品」について、絵巻や、番付の語り・人形役名の異同の点から検討して、改題（と推定される）作品を除いていけば、厳密な意味での「義大夫節初演作品一覽」を完成させることができるであろう。

では、このような取り組みにどのような意味があるのか。

一例を挙げる。「浪花里濫觴」は、「年表」にまったく記載のない作品であるが、享和三年四月に「市之側長門大夫」芝居で上演され、「丸本無御座、焼栗之段計五行二仕候」として、五行本のみが刊行された。五月、東本願寺の「差構」を理由として絶板にされた、と大坂本屋仲間記録「差定帳」に見えるものである。これは、抜き本の検討によって把握できた事柄である。

「新たな興行の立項」や、諸作品の原作／改題関係などの点で、「年表」を充実させることが可能である。「年表」充実の波及効果は、小さくないと考える。

注（1）黒木勘蔵氏著『浄瑠璃史』、青磁社、一九四三年十二月、「結語」五四九頁参照。

（2）内山美樹子氏「浄瑠璃再発見（一）」並木宗輔の作品と「北条時頼記」のことなど——（国立劇場 第一三五回文楽公演 平成十三年五月）パンフレット、日本芸術文化振興会、二〇〇一年五月所収。

（3）鳥越文蔵氏「浄瑠璃略史」（『浄瑠璃集』新編日本古典文学全集、小学館、二〇〇二年十月所収）五頁参照。

（4）近松は、近松全集刊行会編『近松全集』、岩波書店、一九八五年。海音は、海音研究会編『紀海音全集』、清文堂出版、一九七七年。文流は、長友千代治編『錦文流全集』浄瑠璃篇、古典文庫、一九九一年、を参照のこと。

（5）古浄瑠璃正本集刊行会編『竹本義大夫浄瑠璃正本集』、大学堂書店、一九九五年。

（6）廣瀬千紗子氏「並木正三不戻嘶 翻刻と解題」（『芸能史研究』第一五九号、芸能史研究会、二〇〇二年十月所収）に、同書について触れるところがある。

（7）同時に登録された「恵方大黒天」八行本（奥付欠）は、加賀掾「甲子祭」の、第五のみ差し替えた義大夫本であった。「甲子祭」は東京芸大図の写本一点のみが知られているので、同書の板本の出現でもある。「恵方大黒天」と対校するに、写本「甲子祭」は、非常に丁寧な写しであると知られた。

（8）拙稿「新出浄瑠璃本『和泉式部軒端梅』の紹介と翻刻—その他、明和前期の江戸人形浄瑠璃新出資料の紹介—」（『沼津市博物館紀要』27、沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館、二〇〇三年三月所収）参照。

（9）□内の引用は、「差出帳」三番（卅三）（大阪府立中之島図書館編『大坂本屋仲間記録』第八巻、清文堂出版、一九八一年所収、一七三頁）より。本屋仲間記録ではほかに、「出勤帳」二十番（同右、第二巻、一三七頁）、「鑑定録」（六十七）（第八巻、五〇〇頁）、「裁配帳」二番（七十六）（第九巻、一二六頁）に同伴に関する記述がある。

【凡例】

一、本稿は、近松没後義太夫節初演作品のリストである。

一、初演年代順に配列した。

一、記載事項は、「作品番号」「作品名」「作品名よみ」「書誌」「備考」とした。

一、「作品番号」は各元号ごとに、順に数えた。

なお初演番号のあとの、「竹」は竹本座、「豊」は豊竹座の、各劇団初演であることを参考のため、特に示した。

一、「作品名」は、大字七行本の、内題を採用した(角書は省略)。特に書体をゴチックとした。七行本以外に基づく場合は、備考に注記した。

一、「作品名よみ」は、包紙の振り仮名を記した。番付・絵尽は採用しなかった。

振り仮名無記の文字には、「—」を当該字数分置いた。

振り仮名のあとに「包紙(の残る本)の所蔵機関名」、続く○内に「包紙の板元名」を略称を以て、記した。

所蔵機関名に「板木」とあるは、天理図書館所蔵の浄瑠璃本板木から、包紙などを抜き

刷りした『院本表紙包紙集』を指す(三桁の洋数字は、同包紙集の頁数)。

板元略称の詳細は、次の通り。

加清 加島屋加島清助

【近松没後義太夫節初演作品一覽】

【享保】

五年ごろ 〇二竹 河内国焼火 かはちのくにうばがひ 板木〇八(山九) ①作者松田和吉(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)

七年九月 〇三竹 仏御前扇車 ①近松門左衛門添削・作者松田和吉(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京) ④岩波近松全集14

八年正月 〇三 はなまふせん二つはらおび ①なし ②享保八年卯ノ正月吉辰(終丁裏) ③「近江屋板(江)」(題簽) ※書名その他、絵人十六行本に基づく。

八年二月 〇三竹 大塔宮囃子 ①近松門左衛門添削 作者 竹田出雲掾・松田和吉 ②なし ③山本九兵衛(京) ④岩波近松全集14 ※内題下「松田和吉」を削った改修板がある。のちに享保十四年六月「新板大塔宮」、宝暦四年八月以前「太平記囃子」と改題される。

八年五月 〇三豊 記録曾我玉笄 ①作者戸川不鱗(内題下) 作者紀海音(奥) ②なし ③西沢九左衛門(大) ※内題「玉笄」に「かうかいわけ」と振り仮名がある。

八年七月 〇三豊 井筒屋源六恋寒晒 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本九左衛門(大) ④西沢一風全集

八年十一月 〇三豊 建仁寺供養 けんんにんじくやう 京大文(西九) ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本九左衛門(大) ④西沢一風全集

↓八年十一月「桜町昔名花」※伝存不明

九年二月 〇三豊 頼政追善芝 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本九左衛門(大) ④西沢一風全集 ※享保十三年・宝暦元年七月「頼政扇子芝」と改題される。

九年七月 〇三竹 諸葛孔明鼎軍談 しよかつこうめいかなへぐんだん 板木〇三(山九) ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫9

九年十月 〇三豊 女蟬丸 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本屋九左衛門(大) ④西沢一風全集

九年十一月 〇二竹 右大将鎌倉実記 うだいしやうかまくらじつき 板木〇三(空欄) ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

十年正月 〇三豊 昔米万石通 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本屋九左衛門(大) ④西沢一風全集 ※のちに読本浄瑠璃「花樽名取聞」と改題される。

十年三月 〇三豊 南北軍問答 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本屋九左衛門(大) ④西沢一風全集

十年五月 〇三豊 身替強張月 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③山本屋九左衛門(大) ④西沢一風全集 ※内題に「みがはりゆみはりづき」と振り仮名がある。

十年五月 〇三竹 出世握虎稚物語 しゆつせやつこおさなものがたり 板木〇三(天源) ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ※内題に「しゆつせやつこおさなものがたり」と振り仮名がある。

吉宗 吉川宗兵衛
山九 正本屋山本九兵衛
紙与 紙屋与右衛門
正小 正本屋西沢小兵衛
西九 正本屋西沢九左衛門
大治郎 大津屋佐々井治郎右衛門
天源 天満屋玉水源治郎
伝吉 伝法屋寺田吉九郎
万仁 万屋保井仁右衛門
なお題簽・内題に振り仮名のある場合は、備考に記した。
一、「書誌」は、初板初摺の七行本に拠って、①に作者、②に年記、③に奥付の板元名を記した。なお原本に②年記の記載のない場合は、参考のため、作品番号の前に、初演年月を補った。
一、「備考」は、異板のある場合にその特徴、また改題本のある場合にその書名を記すなどした。

↓十年六月『復鳥羽恋塚』は、元禄年間『一心五戒魂』の改題。

十年九月 〇〇〇竹 大内裏大友真鳥 たいだりおほとものまとり 東京芸大図(天源) ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫9
十年十月 〇〇〇豊 大仏殿万代石楚 ①作者 西沢一風・田中千柳(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④西沢一風全集・叢書江戸文庫10
十一年二月 〇〇〇豊 曾我錦几帳 ①作者安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ※「第四 道行袖の大儀」「とんざく大こくまび」の、各標題下に「作者安田蛙文」とある本、後者にのみある本、いずれにもない本の三種がある。

十一年四月 〇〇〇豊 北条時頼記 ほうでうじらいき 板木三二(西九) ①作者 西沢一風・並木宗助(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④西沢一風全集・叢書江戸文庫10 ※署名「作者西沢一風」とある本は、享保十九年正月の越前少掾引退興行再演時の改題板。

十一年九月 〇〇〇竹 伊勢平氏年々鑑 ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

十二年正月 〇〇〇竹 敵討御未刻太鼓 かたさきうちおやつのだいこ 板木三二(吉宗) ①作者長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ※内題「御未刻太鼓」に「おやつのだいこ」と振り仮名がある。

十二年二月 〇〇〇豊 清和源氏十五段 せいわけんじ——だん 日本女子大図(西九) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

十二年四月 〇〇〇竹 七小町 な、こまち 文楽劇場(山九) ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫9

十二年八月 〇〇〇竹 三莊大夫五人嬢 さんしやうだゆふこにんむすめ 板木三二(空欄) ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫9

十二年八月 〇〇〇豊 撰津国長柄人柱 つのくにながらのひとはしら 板木三二(空欄) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫10

十三年三月 〇〇〇竹 工藤左衛門富士日記 ①作者竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

十三年四月 〇〇〇豊 尊氏將軍二代鑑 たかうぢしやうくん だいか、み 演博(西九) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

十三年五月 〇〇〇豊 南都十三鐘 なんと——がね 板木三二(万仁) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

十三年五月 〇〇〇竹 加賀国篠原合戦 かかのくにしのはらかつせん 板木三二(山九) ①作者 竹田出雲・長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫9

↓享保十三年『頼政扇子芝』(よりまさあふぎ)しば 天理図(西九)は、享保九年二月『頼政追善芝』の改題。この時は題簽・包紙での改題で、宝暦元年再演時に至って内題が埋木された。

十四年正月 〇〇〇豊 後三年奥州軍記 ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫10

十四年正月 〇〇〇豊 愛護若都の富士 ①作者辰松幸助(内題下) ②享保十四年乙酉年正月吉日(奥付) ③手島屋(江)・野辺屋(江)

十四年二月 〇〇〇竹 尼御台由比浜出 ①作者 竹田出雲・長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

↓十四年六月 新板大塔宮 しんはんおほとうのみや 板木三二(山九) ※享保八年二月『大塔宮職鑑』の改題(包紙と題簽。内題は『大塔宮職鑑』のまま)。

十四年八月 〇〇〇竹 眉間尺象貢 ①作者 竹田出雲・長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

十四年九月 〇〇〇豊 藤原秀郷倭系図 ふちはらのひでさとたはらのけいづ 板木三二(空欄) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

十四年十一月 〇〇〇竹 京土産名所井筒 きやうみやめいしよのいづ、板木三二(山九) ①作者長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ※のちに「業平男今様井筒」と改題される。

十五年正月 〇〇〇豊 蒲冠者藤戸合戦 ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

十五年二月以前 〇〇〇竹 梅屋洪浮名色場 ①松田和吉作(内題下) ②なし ③奥付欠 ※奥欠本以外残らない。

十五年二月 〇〇〇竹 三浦大助紅梅豹 みうらのおほすけかうばいたづな 演博(加清) ①作者 長谷川千四・文耕堂(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫38 ※内題下「作者 長谷川千四・松田和吉」とする覆刻板も残る。

十五年五月 〇〇〇豊 本朝檀特山 ほんてうだんどくせん 板木三二(天源) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ※内題「檀特山」に「たんどくせん」と振り仮名がある。

十五年八月 〇〇〇竹 信州姨拾山 ①作者 長谷川千四・文耕堂(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

十五年八月 〇〇〇豊 楠正成軍法実録 ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

- 十五年十一月 063竹 須磨都源平躰 すまのみやこげんへいつ、じ 板木57(紙与) ①作者 文耕堂・長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)
- 十六年正月 063豊 源家七代集 げんけしちたいしう 板木50(万仁) ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 十六年四月 064豊 和泉国浮名溜池 ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 十六年九月 065竹 鬼一法眼三略巻 きいちほげんさんりやくのまき 板木53(紙与) ①作者 文耕堂・長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)
- 十六年十月 066豊 赤沢山伊東伝記 ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- ↓十七年正月『八百屋お七恋緋桜』は、紀海音『八百やお七』の改題(題簽)。
- 十七年四月 067竹 増補用明天王 ①なし ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)
- ※中字十二行本の内題は『増補用明天王職人鑑』とある。
- 十七年五月 068豊 今様傾城反魂香 ①なし ②なし ③正本屋九左衛門(大) ※のちに安永五年七月『音曲八の巻』と改題される。
- ↓十七年六月『伊達染手綱』は、近松『丹波与作』七行本の改題(『丹波与作』巻末の「与作おどり」を削除する)。
- 十七年九月 069竹 壇浦兜軍記 だんのうらかぶとぐんき 板木54(空欄) ①作者 文耕堂・長谷川千四(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④小学館日本古典文学全集45
- 十七年九月 069豊 待賢門夜軍 ①作者 並木宗助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 十七年十月 069豊 忠臣金短冊 ちうしんこがねのたんざく 中之島図(西九) ①作者 並木宗助・小川文助・安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫10
- ※内題に「ちうしんこがねのたんざく」と振り仮名がある。
- ↓十七年十二月『前内裏島王城遷』は、非・義太夫節。『照天姫操車』も同様。
- 十八年二月 069豊 お初天神記 ①なし ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 十八年四月 069竹 車還合戦桜 ①作者 文耕堂(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)
- 十八年四月 064豊 鎌倉比事青砥銭 ①作者 安田蛙文(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- ↓十八年六月『景事揃』、『音曲千本竹』(山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))は、この時の刊行カ。
- ↓十八年七月『重井筒容鏡』は、近松『心中重井筒』の改題。のちに『追善重井筒』と再改題される。
- 十八年七月 065豊 秀伶人吾妻雛形 ふたばれいじんあづまひながた 板木56(空欄) ①作者 並木宗助・同文助(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 十九年二月 066竹 応神天皇八白幡 おうじんてんわうやつのはた 板木50(天源) ①作者 文耕堂(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫38
- 十九年五月以前 057 傾城山姥都歳玉 ①なし ②なし ③さがみや兵衛(江) ※書名その他、絵入十四行本に拠る。
- 十九年六月 058豊 曾我昔見台 そかむし(ママ) けんたい 板木53(西九) ①作者 近松氏 並木宗助・同文助/集之(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 十九年八月 059豊 那須与市西海硯 なすのよいちさいかいす、り 愛媛大図(天源) ①作者 並木宗助・同文助(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫11
- ↓十九年十月以前カ『契情我立袖』は、非・義太夫節カ。※句点が行頭に付される点からは、宇治加賀掾系統との関連が想定される。また奥付記載の大夫の動靜から江戸での初演と考えられているが、本そのものは上方板(奥付の板元は、山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大))とある)とみられる点整合しない。
- 十九年十月 060竹 芦屋道満大内鑑 あしやだうまんおほうちかみ 板木58(紙与) ①作者 竹田出雲(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④岩波新日本古典文学大系93
- 二十年正月 061竹 元日金藏越 ぐはんじつこがねのとしこし 板木49(紙与) ①作者 文耕堂(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)
- 二十年二月 062豊 南蛮鉄後藤目貫 ①作者 無名字(終丁裏) ②于時延享五歳戊辰正月晦日改之(終丁裏) ③なし ④叢書江戸文庫11 ※書誌は、東京芸大図の写本(W768.427-Na10)に拠る。準備段階で上演差止めとなり、初演されなかつた。そのため浄瑠璃本も刊行されず、写本でのみ流通した。
- 二十年五月 063豊 万屋助六二代掃 よろづやすけろくにだいがみこ 演博(西九) ①並木宗輔添削 作者 並木文輔(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)
- 二十年八月 064豊 苧萱桑門築紫鞆 かるかやだうしんつくしのいへづと 早大図(西九) ①作者 並木宗輔・並木文輔(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ※内題下作者署名を削って、「座本豊竹越前少掾」と埋木した改修板がある。なお中字十行本の内題は、『苧萱桑門築紫鞆』とある。
- 二十年九月 065竹 甲賀三郎窟物語 かうかの——いはやものかたり 板木57(山九) ①作者 竹田出雲・文耕堂(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江

〔元文〕

元年二月 〇〇竹 赤松円心縁陣幕 あかまつゑんしんみどりのぢんまく 演博(紙与) ①作者 文耕堂・三好松洛(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

↓元年二月『天神記冥加の松』 ※伝存不明

元年三月 〇〇豊 和田合戦女舞鶴 わだかつせんおんなまひづる 板木〇〇(西九) ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫11 ※内題下作者署名を削つて、「座本豊竹越前少掾」と埋木した改修板もある。

元年五月 〇〇竹 敵討檻樓錦 かたさうちつゞれのにしき 板木〇〇(空欄) ①作者 文耕堂・三好松洛(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

元年十月 〇〇竹 猿丸大夫鹿巻毫 ①作者 文耕堂・三好松洛(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫38

元年カ二年 〇〇今様東二色 ①蛙井集之(奥付) ②なし ③三河屋源七(江)

二年正月 〇〇豊 安倍宗任松浦登 ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

二年正月 〇〇竹 御所桜堀川夜討 ごしよさくらほりははようち 日大図(山九) ①作者 文耕堂・三好松洛(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫

38 二年正月 〇〇竹 菅丞相冥加の松梅 かんせうしやうめうめかのまつむめ 板木〇〇(吉宗) ①なし ②なし ③山本九兵衛(京)・吉川宗兵衛(大)・鱗形屋孫兵衛(江) ※初演時刊行と思しき単行本未見。例示の包紙と本は、明和三年・二世「竹本政太夫一周忌追善」興行時の後摺本。

二年七月 〇〇豊 釜淵双級巴 かまがふちふたつともゑ 板木〇〇(空欄) ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

二年十月 〇〇竹 太政入道兵庫岬 だいじやうにうだうひやうこのみさき 板木〇〇(空欄) ①作者 竹田小出雲・竹田正蔵(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

三年正月 〇〇竹 行平儀馴松 ゆきひらそなれまつ 文楽劇場(紙与) ①作者 文耕堂・竹田正蔵・三好松洛(内題下) ②なし ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫

40 三年四月 〇〇豊 丹生山田青海剣 ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③西沢九左衛門(大)

三年八月 〇〇竹 小栗判官車街道 おぐりはんくはんくるまかいたう 板木〇〇(空欄) ①作者 千前軒・文耕堂(内題下) ②元文三年午八月十九日(初丁表) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫40

三年十月 〇〇豊 苗染野中の隠井 あかねぞめのなか こもりんど 板木〇〇(空欄) ①並木宗輔添削・作者原田由良助(内題下) ②なし ③西沢九左衛門(大)

四年二月 〇〇豊 奥州秀衡有警堵 ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③西沢九左衛門(大) ④国立劇場『未翻刻戯曲集・3』

四年四月 〇〇竹 ひらかな盛衰記 ———— せいすいき 早大図(山九) ①作者連名 文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒(内題下) ②元文四己未歳四月十一日(終丁裏)

③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④岩波日本古典文学大系51

四年八月 〇〇豊 狭夜衣鴛鴦剣翅 ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③西沢九左衛門(大) ④岩波新日本古典文学大系93

五年二月 〇〇豊 鷗山姫舎松 ①作者並木宗輔(内題下) ②なし ③西沢九左衛門(大) ④叢書江戸文庫11

五年四月 〇〇豊 本田善光日本鑑 ①作者為永太郎兵衛(内題下) ②なし ③西沢九左衛門(大)

五年四月 〇〇竹 今川本領猫魔館 いまがはほんりやうねこまたやしき 板木〇〇(空欄) ①作者連名 文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒(内題下) ②元文五庚申歳四月十一日(終丁裏)

③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

五年七月 〇〇竹 将門冠合戦 まさかどかふりかつせん 関大図(山九) ①作者連名 文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒(内題下) ②元文五庚申歳七月朔日(終丁裏)

③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

五年九月 〇〇豊 武烈天皇纒 ①作者為永太郎兵衛(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

↓五年十一月『追善百日曾我』 ※伝存不明

↓五年十一月『恋八卦柱曆』は、近松『大経師昔曆』七行本の改題。なお『大経師昔曆』八行本には、『貞享元年情柱曆』とする改題本(年次不明)がある。

〔寛保〕

元年正月 〇〇竹 伊豆院宣源氏鏡 いづるんぜんげんじのかみ 演博(山九) ①作者 文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲・千前軒(内題下) ②元文六辛酉正月十四日(終丁裏)

〇〇竹 山本九右衛門(大) ※中字十行本の内題は、『伊豆院宣源氏鏡』とある。

元年三月 〇〇豊 本朝斑女箋 ほんちやうはんぢよがあふぎ 日大図(西九) ①作者 文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

元年五月 〇〇竹 新うすゆき物語 ●振り仮名なし 板木〇〇〇(紙与) ①作者 文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲(内題下) ②寛保元歳辛酉五月十六日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大)) ④岩波新日本古典文学大系93

元年五月 〇〇豊 青梅撰食盛 あをむめつわりざかり 板木〇〇〇(西九) ①作者 紀海音(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ※海音『心中二つ腹帯』の改題(部分改作)。

元年七月 〇〇豊 播州皿屋舗 ばんしうさらやしき 日大図(万仁) ①作者 為永太郎兵衛・浅田一鳥(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫11

元年九月 〇〇豊 田村磨鈴鹿合戦 たむらまろすゞかかつせん 演博(紙与) ①作者 浅田一鳥・豊田正蔵(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

〇〇竹 花衣いろは縁起 はなごころも——えんぎ 板木〇〇〇(紙与) ①作者 三好松洛・竹田小出雲(内題下) ②寛保二壬戌歳二月十四日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大))

二年三月 〇〇〇 石橋山鏡襲 ①作者 為永太郎兵衛・並木宗輔(終丁裏) ②于時安永三年甲午八月朔日(終丁裏) ③安于屋宇兵衛(大)・中山清七(江)・中島屋伊左衛門(江) ※通し本の開板は、安永三年のこと。

〇〇〇豊 百合稚高麗軍記 ゆりわかかうらいぐんぎ 演博(西九) ①作者 為永太郎兵衛。文者 並木宗輔・浅田一鳥(終丁裏) ②寛保二壬戌天弥生三日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

↓二年四月『室町千景敷』は、近松『津国女夫池』の改題。

〇〇竹 男作五雁金 おとこだていつ、かりがね 関大図(山九) ①竹田出雲掾作(内題下) ②寛保二戊辰七月二日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大)) ④叢書江戸文庫40

〇〇〇豊 道成寺現在蛇鱗 だうじやうじげんざいうろこ 天理図(西九) ①作者 浅田一鳥・並木宗輔(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大) ④叢書江戸文庫37

〇〇〇豊 鎌倉大系図 かまくらおほけいづ 板木〇〇〇(万仁) ①作者 為永太郎兵衛(内題下) 文者 浅田一鳥・豊岡珍平・為永千蝶(終丁裏) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

〇〇〇〇豊 風俗太平記 ①作者 為永太郎兵衛(内題下) 作者 連名 浅田一鳥・豊岡珍平・小川半平(終丁裏) ②寛保三癸亥天弥生十八日(終丁裏) ③西沢九左衛門(大)

〇〇竹 入鹿大臣皇都諱 いるかだいじんみさとあらしひ 板木〇〇〇(山九) ①竹田出雲作(内題下) ②寛保三歳亥四月六日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大))

〇〇〇竹 丹州爺打栗 ①作者 竹田小出雲・三好松洛(内題下) ②寛保三天癸亥五月十八日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大))

〇〇〇〇豊 久米仙人吉野桜 くめのせんになよしのさくら 園田女子大図(西九) ①作者 為永太郎兵衛(内題下) ②寛保三龍集昭陽大淵献年秋八月十五日(終丁裏) ③西沢九左衛門(大) ④叢書江戸文庫37

〔延享〕

〇〇竹 児源氏道中軍記 ちごげんじだうちうぐんぎ 板木〇〇〇(天源) ①作者 竹田出雲掾(内題下) 門人 三好松洛・竹田小出雲(終丁裏) ②延享元年甲子三月六日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大))

〇〇〇 義経新舍状 ①なし ②延享元年甲子三月(終丁裏) ③丸屋甚八郎(江) ※のちに『後藤伊達贖』(年次不明)、『増補腰越状』(安永五年二月以前)と改題される。

〇〇〇〇豊 潤色江戸紫 ①作者 為永太郎兵衛(内題下) 作者 連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴(終丁裏) ②延享元年甲子四月五日(終丁裏) ③西沢九左衛門(大)

〇〇〇〇〇豊 柿本紀信正旭車 かきのもとのおきそうじやうあさひくるま 板木〇〇〇(西九) ①作者 為永太郎兵衛(内題下) 作者 連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴(終丁裏) ②延享元関逢因敦年九月十一日(終丁裏) ③西沢九左衛門(大)

〇〇〇〇竹 八曲掛掛絵 はつきよくかたみのかげゑ 板木〇〇〇(山九) ①編者 竹田小出雲(終丁裏) ②延享元年甲子霜月十六日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山本九右衛門(大)) ※内題に「はつきよくかたみのかげゑ」と振り仮名がある。

〇〇〇〇〇〇豊 遊衣衣紋鑑 ゆうくんゑもんかぎみ 板木〇〇〇(空欄) ①作者 為永太郎兵衛(内題下) ②延享元年甲子臘月朔日(終丁裏) ③西沢九左衛門(大) ※終丁裏に「作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴」を加えた改修板もある。

〇〇〇〇〇〇〇〇 三軍桔梗原 ①作者 桜井頼母(内題下) ②延享貳乙丑載正月十二日(八十五丁表) ③天満屋源二郎(大)・堺屋勘四郎(大) ※終丁裏に「春艸堂・戸田吾文・松岡千助・岩瀬左門・文淵堂」を加えた改修板もある。

〇〇〇〇〇〇〇〇竹 軍法富士見西行 ぐんほうふじみさいぎやう 板木〇〇〇(紙与) ①作者 並木千柳・小川半平・竹田小出雲(終丁裏) ②延享二乙丑年二月十三日(終丁裏) ③山本九兵衛(京・山

本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫40

008 詩近江八景 からうたあふみはつけない 天理園(西九) ①作者為永太郎兵衛(内題下) 作者連名 浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴(終丁裏) ②延享二乙丑年二月廿七日(終丁裏)

009 西沢九左衛門(大)

010 延喜帝秘曲琵琶 ゑんぎのみかどひきよくのびは 京大図(天源ほか) ①作者紀甘谷(内題下) ②延享貳載乙丑孟夏上三日(終丁裏) ③天満屋源二郎(大)・堺屋勘四郎(大) 二年五月 011 増補大仏殿蹴礎 そうほだいでいぶつでんばんだいのいしずへ 板木288(空欄) ①作者 浅田一鳥・豊岡珍平(終丁裏) ②なし ③西沢九左衛門(大)

012 竹 夏祭浪花鑑 なつまつりなにはかみ 板木292(紙与) ①作者 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲(終丁裏) ②延享弟(ママ)一孟秋十六日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④岩波日本古典文学大系51

013 浦島太郎倭物語 うらしまたらうやまとものかたり 板木295(西九) ①作者為永太郎兵衛(内題下) 文者 浅田一鳥・豊岡珍平・為永千蝶(終丁裏) ②なし ③西沢九左衛門(大)

014 唐金茂衛門東鬘 ①作者 桜井頼母・並木和輔(終丁裏) ②延享貳歳乙丑臘月閏朔日・延享三丙寅正月十八日本出来(終丁裏) ③天満屋源二郎(大) ※内題に「たうがねもゑもんあづまかつら」と振り仮名がある。

015 竹 楠音嘶 くすのきむかしはなし 板木296(空欄) ①作者 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲(終丁裏) ②延享三孟春十四日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④叢書江戸文庫40

↓三年五月「追善仏御前」は、「享保」002「仏御前扇軍」の改題。本としては題簽でのみ改題したものであるカ。中尾松泉堂『古典目録』平成十四年正月新収古典籍特輯、888参照。

↓三年五月「追善重井筒」は、近松「心中重井筒」の改題。享保十八年七月「重井筒容鏡」よりの、再改題。大阪音楽大学本(奥欠)は、巻末に「音楽菩薩揃」を加える点特徴。同興行番付では「切ふし事」を備えたと思われるが、これに相当する本文と推定する。

三年五月 016 酒呑童子出生記 しめてんどうじしゆつしやうき 演博(西九) ①梁塵軒作(内題下) ②なし ③正本屋九左衛門(大)

↓三年二月七月「博田小女郎思枕」(はかたこぢらうおもひのなみまくら 板木298(空欄))は、近松「博多小女郎波枕」の改題(題簽・包紙)。

017 歌枕様棠花合戦 うたまくらやまぶさかつせん 演博(天源) ①京春卿堂・大坂並木和輔/述(内題下) 校合 戸田吾文・松岡千助・岩瀬左門(終丁裏) ②延享三丙寅歲仲秋朔日(終丁裏) ③玉水源二郎(大)

018 竹 菅原伝授手習鑑 すがわらでんしゆてならひかみ 文楽協会(山九) ①竹田出雲作(内題下) 作者連名 並木千柳・三好松洛・竹田小出雲(終丁裏) ②延享三年寅八月廿一日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④小学館日本古典文学全集45・日本古典全書『竹田出雲集』

019 女舞剣紅楓 ①京春卿堂(内題下) ②延享三丙寅歲十月廿一日(終丁裏) ③玉水源二郎(大) ※年記を削った本もある。

020 花袋殿流鳥 はないかだがりうししま 板木299(西九) ①作者 浅田一鳥・但見弥四郎・松屋来輔(終丁裏) ②延享三丙寅年霜月十七日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

021 裙重紅梅服 つまかさねこうばいこそで 板木304(万仁) ①作者 浅田一鳥・但見弥四郎(内題下) ②延享四丁卯年二月五日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大) ※内題に「つまかさねかうばいこそで」と振り仮名がある。

022 鎮西八郎射往来 ちんぜいはちらうゆみやわうらい 京大図(天源) ①京春卿堂(内題下) ②延享四年丁卯如月廿一日(終丁裏) ③玉水源二郎(大)

023 豊 万戸將軍唐日記 まんこしやうぐんもろこしにつき 板木308(空欄) ①作者 梁塵軒(終丁裏) ②延享四丁卯年弥生廿二日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大) ※終丁裏に「作者浅田一鳥・但見弥四郎・梁塵軒」を加えた改修板もある。

024 豊 悪源太平治合戦 あくげんだへいちかつ「せん」 板木309(空欄) ①作者 並木周蔵・安田蛙桂・浅田一鳥(終丁裏) ②延享四丁卯歳七月廿八日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

025 竹 傾城枕草談 けいせいまくらぐんだん 板木310(吉宗) ①作者 並木千柳・三好松洛・竹田出雲(終丁裏) ②延享四年卯八月廿三日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

026 いろは日蓮記 ①古人近松門左衛門作・当世市中庵添削(終丁裏) ②延享四丁卯歳小春吉祥日(終丁裏) ③近江屋藤兵衛(江) ※寛延二年「日蓮記児祝」と改題される。なお内題角書に「古人近松門左衛門作・当世並木宗輔添削」とある。「市中庵」は、並木宗輔の別号。

027 竹 義経千本桜 よしつねせんほんざくら 板木339(加清) ①作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳(終丁裏) ②延享四丁卯年霜月十六日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大) ④岩波新日本古典文学大系93。日本古典全書『竹田出雲集』

〔寛延〕

000豊 容鏡出入湊 すがたくらべていりのみなと 東京女子大図(西九) ①作者 並木丈輔・豊岡珍平・安田蛙桂・浅田一鳥(終丁裏) ②延享戊辰歳正月五日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

001豊 東鑑御狩巻 あづまかみみかりのまき 東京芸大図(空欄) ①作者 並木丈輔・安田蛙桂・浅田一鳥(終丁裏) ②寛延元戊辰天七月十五日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

002竹 仮名手本忠臣蔵 かなでほんちうしんぐら 実践女子大図(吉宗) ①作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳(終丁裏) ②寛延元年辰八月十四日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

003竹 岩波日本古典文学大系51・小学館新編日本古典文学全集77・新潮日本古典集成70・日本古典全書「竹田出雲集」

004 住吉誕生石 ①作者松井星照(終丁裏) ②寛延元年戊辰九月三日(終丁裏) ③山本九兵衛(京) ※のちに読本浄瑠璃「相生齋の松」と改題される。

005豊 撰州渡辺橋供養 せつしうわたなへはしくやう 京大図(万仁) ①作者連名 豊丈助・安田蛙桂・浅田一鳥(終丁裏) ②寛延元歳辰霜月十五日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

④叢書江戸文庫37

006豊 八重霞浪花浜菰 やゑがすみなにはのはまおぎ 龍谷大図(西九) ①作者 豊丈助・安田蛙桂・豊正助・浅田一鳥(終丁裏) ②寛延式己巳歳弥生廿六日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

007竹 栗島譜嫁入雛形 あはしまけいつよめいりひななた 板木202(紙与) ①作者連名 竹田出雲・三好松洛・並木千柳(見返し) ②寛延二己巳年卯月十八日(見返し) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

008豊 華和讚新羅源氏 はなわさんしんらげんじ 板木200(紙与) ①梁塵軒輯(終丁裏) ②寛延式己巳歳文月十五日(終丁裏) ③正本屋九左衛門(大)

009豊 浪花五節句操踊 ①なし ②なし ③西沢九左衛門(大) ※年表が「付録番付か、袋紙か」と推定した「絵入の刷物」(所在など記載せず。大阪音楽大学所蔵資料をさすとすれば)は、抜き本の表紙である。大音大本は現在、当該表紙と本文二丁のみ残り、一見抜き本のようにも見えるが、糸の綴じ穴も残るので、元来、通し本(糸綴じ)として刊行された可能性が残る。

010竹 双蝶蝶曲輪日記 ふたつてふくくるわにつき 国会図(山九) ①作者連名 竹田出雲・三好松洛・並木千柳(終丁裏) ②寛延二己巳年七月廿四日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)

④小学館新編日本古典文学全集77

↓寛延二年十月「日蓮記見硯」は、延享四年「いろは日蓮記」の改題。

011豊 物ぐさ太郎 もの—たらう 広島文教女子大図(空欄) ①作者 浅田一鳥・安田蛙桂・豊丈助・難波三蔵(終丁裏) ②寛延式己巳年十一月四日(終丁裏) ③鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大)

012竹 源平布引滝 げんへいぬのびきのたき 日大図(山九) ①作者 並木千柳・三好松洛(終丁裏) ②寛延式年己十一月廿八日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江)

④岩波日本古典文学大系52

013豊 手向八重桜 たむけのやゑさくら 板木215(空白) ①なし ②寛延三歳次庚午三月十五日 ③鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大) ④国立文楽劇場「浄瑠璃正本翻刻集・1」

014豊 夏楓連理枕 なつもみぢれんりのまくら 板木213(西九) ①作者 浅田一鳥・安田蛙桂・豊正助・難波三蔵(終丁裏) ②寛延三歳庚午六月朔日(終丁裏) ③鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大)

015 新板累物語 ①作者並木良輔(内題下) 作者連名 一三軒・八州堂・三楽坊(終丁裏) ②寛延三庚午載八朔吉祥日(終丁裏) ③西沢九左衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江) ※寛政四年

『累解脱打鋪』と改題される。

三年八月ころ 016 傾城買指南 ①なし ②なし ③西沢九左衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江) ※前項『新板累物語』に同板の奥付をもつ本が残ることから、開板を『新板累物語』に前後する時期と推定する。年表は「宝暦五年以前」と推定。

017竹 文武世継梅 ①作者 並木千柳・三好松洛(終丁裏) ②寛延三歳午霜月廿四日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江) ※題簽に「ぶんぶよつぎ

のむめ」と振り仮名がある。

〔宝暦〕

000豊 玉藻前囃袂 ①作者浪岡橋平。作者 浅田一鳥・安田蛙桂(終丁裏) ②寛延四辛未歳正月十四日(終丁裏) ③鱗形屋孫兵衛(江)・西沢九左衛門(大)

001竹 恋女房染分手綱 こひにようぼうそめわけたづな 板木115(空欄) ①作者 吉田冠子・三好松洛(終丁裏) ②寛延四年辛未二月朔日(終丁裏) ③山本九兵衛(京)・山本九右衛門(大)・鱗形屋孫兵衛(江)

